



The Supporters Times



衆議院議員 秋葉賢也 政策・活動レポート

民主党政権の疑惑と公約違反に厳しく切り込みます!!



政権交代後はじめての通常国会がスタートしました。会期末である6月16日までの150日間、大いに政策論争し、野党として存在感をしっかりと示していきたいと思えます。

まずは補正予算案の審議となりますが、中身は我々が作ったものとはほぼ変わりありません。審議拒否などすることなく、是々非々の論戦を展開し、早期成立に尽力して参ります。同時に、鳩山総理の偽装献金や脱税の問題は決して一件落着いたわけではなく、多様な疑惑が未解決のままです。そして何よりも、小沢幹事長の資金管理団体の虚偽記載の問題は、現職の国会議員を含む3名が逮捕されるという重大局面に発展しており、関係者の国会への証人喚問を含めて徹底的に追及していかなばなりません。公共事業の受注を巡る疑惑も指摘されており、全容解明に向けて、国会の場でも厳しく正していく必要があります。

次に、民主党が初めて編成した新年度の当初予算案の審議になりますが、この予算案は一言でいえば、「公約違反のバラマキ予算」です。問題点を明確に指摘したいと思います。民主党が昨年の選挙で

国民に約束したマニフェストがことごとく破られ、その多くが実行されなかったことは、公約違反の何物でもありません。野党時代にあれほど反対していたガソリンの暫定税率の廃止は見送りとなり、年金記録問題の解決のための予算2千億円も900億円と半額以下になってしまいました。とりわけ財源確保については全くの見当はずれで、その無責任さが明白になりました。

そもそも民主党のマニフェストでは、当初、国の総予算207兆円の組み換えと無駄の削減で20兆円捻出すると大見栄を切っていました。それが、選挙では9.1兆円に半減され、その後の総理会見では7兆円、さらに事業仕分けでは目標額が3兆円となりましたが、終了してみると6千億円、それに土地改良の予算削減などで約1兆円にとどまったのが実態です。

当初の目標との差額は何と19兆円にも上ります。そもそも予算編成において、私たちが与党時代に取り組んできたマイナスシーリングを設定しなかったために、各省の概算要求が際限なく膨れ上がり、各大臣も査定大臣としてではなく要求大臣になり下がる有様は実に滑稽でした。

いずれにしても、予算で大切なのはその中身です。子ども手当や農家への所得補償などは結果の平等に偏重した度が過ぎるバラマキ予算であり、費用対効果に疑問符がつくものばかりです。なかんずく経済成長戦略が全く欠落していることが最大の問題点です。国民所得を上げ、雇用を拡大していくための具体的な施策に乏しいのです。我々はこの点、しっかりとした対案を提示し、修正動議を提出する考えです。

衆議院議員

秋葉賢也

Think Globally, Act Locally!

対案 「子ども手当」は有効か？



平成22年度予算が編成され、中学卒業までの子ども1人あたり1万3000円（平成23年度以降は2万6000円）の「子ども手当」が所得制限なく支給されることになりました。日本は他のOECD諸国と比べて、家庭支援や教育に対する公的支出の割合が低く、支援を充実させ、社会全体で子どもを育てることが必要です。一方、国と地方の累積債務残高は対GDP比170%を超えており、費用対効果のよい政策が求められています。来年度で2.3兆円、23年度からは5.3兆円という額は、「霞ヶ関埋蔵金」では恒久的に対応できません。来年度は地方に約5700億円の負担を求めることになりましたし、国債増発は将来の国民の負担。「子ども手当」がゆくゆくは「子ども」たちの負担になって重くのしかかってくるのです。

☆「子ども手当」では「定額給付金」と同じ☆

「子ども手当」には2つの問題点があると思います。1つめは所得制限がないこと、2つめは使途制限がないことです。民間会社の調査によると、子ども手当を貯蓄にまわすという家庭がかなり多いことが予想されていますし、子育て以外に使われるのでは「子どもを社会全体で育てる」という理念とはかけ離れてしまいます。自公政権では所得制限付きで児童手当を給付してきました。このように、対象や使途が具体的な政策を講じるべきではないでしょうか。

☆提言：「子ども手当」より子育てへの直接支援を！3つの提案☆

子ども手当に代わる支援策として、3つの政策を提案したいと思います。

①給食費の無料化…4500億円

文部科学省が平成18年に実施した「学校給食費の徴収状況に関する調査」をもとに作成した、下の表をご覧ください。学校給食を実施していた全国の国公私立の小中学校のうち、なんと約44%の学校で給食費の未納問題が発生し、未納総額は約22億円にのぼります。未納問題には学校の教頭や担任の教師が家庭訪問などの対応をしているケースが多く、本来の仕事に支障が出てきています。給食費の無料化にかかる費用は約4500億円と試算されています。

②幼児教育の無償化…7900億円

民主党政権が打ち出した「公立高校の実質無償化」は評価できる政策だと思いますが、さらに子育ての負担軽減という観点から幼児教育の無償化も実施するべきです。自民党は昨夏の衆議院選挙マニフェストで幼児教育の無償化を提言しており、必要な財源は私立・公立の幼稚園・保育園すべて併せて7900億円と試算されています。

③奨学金の充実と給付型奨学金の創設

教育費が家計に及ぼす負担は、高等教育の分野でより重たいものになっています。諸外国では給付型の奨学金が充実しており、学びたい人が家計の所得にかかわらず学べる環境が整っています。しかし日本で奨学金事業を行っている「日本学生支援機構」では貸与型の奨学金のみで、受給できる人数も極めて少ないのが現状です。

☆費用対効果も抜群☆

単なるバラマキでなく、政策目標を確実に達成するにはどちらがよいでしょうか。児童手当に対する国の支出は平成20年度決算で約4700億円、給食費の無料化、幼児教育の無償化と併せても1.7兆円程度ですむのです。子ども手当と同額を計上すれば、私学助成の拡充なども含めて、政策目標を確実に達成できると考えます。



国公私立の小中学校における給食費の未納の割合および額（平成17年度）

区 分		小学校	割合	中学校	割合	合 計	割合
学校数（校）	学校給食実施校の総数	22553	—	9368	—	31921	—
	未納の児童生徒がいた学校数	9107	40.4%	4800	51.2%	13907	43.6%
児童生徒数（人）	学校給食を提供した生徒数	7164936	—	2868412	—	10033348	—
	給食費が未納の生徒数	60865	0.8%	38128	1.3%	98993	1.0%
学校給食費（円）	年間の学校給食費の総額	2992億6927万	—	1219億6692万	—	4212億3620万	—
	給食費未納額の総額	13億0626万	0.4%	9億2337万	0.8%	22億2963万	0.5%

※文部科学省の調査結果をもとに秋葉事務所作成

※給食費の月平均は、小学校で約4000円、中学校で約4500円（同調査）

秋葉代議士に聞いてみよう!!



— 今年の抱負を教えてください！

立法府の一員としての醍醐味はやはり必要なルールを作って、国民ニーズに応えることです。反対のための反対、ではなく、今年は議員立法に大いに関わって政策提言していきたいです。

— 2010年度の国内総生産(GDP)成長率の見通しが3年ぶりのプラス成長となりました。しかし依然として、景気の二番底も懸念されています。国としては、どのような政策をとっていくべきでしょうか。

プラス成長とは言っても、実感は全くないと思います。自公政権が作った第一次補正予算を執行停止した結果、間違いなく景気が腰折れし「鳩山不況」につながっています。まずは成長戦略を具体化し、景気回復に全力を尽くすべきです。

— 平成22年度予算案は、低所得者に配慮した政策に予算が重点配分された一方、国債発行額は過去最大の44.3兆円にのぼる見込みです。代議士のご意見を聞かせてください！

民主党政権は、税金を使うこと、給付することに偏っているように感じます。もちろん低所得者に配慮した政策や内需拡大は重要ですが、どうしたら日本全体でのパイを大きくできるか、というところにもっと焦点を当てる必要があります。税収の大幅な減少は政権交代がなくても避けられなかったでしょうが、旧政権は経済財政諮問会議を中心として成長戦略を立て、財政規律に配慮しながら財政を運営してきました。今の政府の方針では、将来の日本は大変なことになってしまいます。昨年末ようやく経済成長戦略が発表されましたが、全く具体的なものではありません。骨組みをしっかりと呈示して、長期的な成長ビジョンを提言していきたいです。また歳出の見直しの徹底と事業優先順位の厳格化という一層の行財政改革を進めて、財政規律維持のためのプログラムづくりも求めていると思います。



— 議員生活も15年になりました。今までの議員生活で一番印象に残っていることは何ですか？
選挙で選ばれる議員として現場の声を形にしたい、という思いから政治家を志しました。ですから、一番印象に残っているのは、県議時代に「暴走族根絶条例」をはじめたくさんの条例を成立させたことです。代議士になってからも「高齢者虐待防止法」をはじめ3つの議員立法を成立させました。今後もより積極的に携わっていききたいと思います。

— ありがとうございました！年男・秋葉代議士の今後の活躍に期待しています！

「日本年金機構」がスタートしました

社会保険庁が廃止され、1月から新たに国民年金、厚生年金の支払い・保険料徴収などの事務を行う「日本年金機構」が発足しました。年金記録問題は日本年金機構に引き継がれ、理事長のリーダーシップの下で「年金記録問題対策本部」を中心に、組織横断的に全力を挙げて取り組むこととなります。

☆変わりません☆

- ・年金証書や年金手帳はそのまま有効です。新たな手続きは必要ありません！
- ・社会保険事務所は「年金事務所」と名称が変わりますが、所在地や電話番号の変更はありません！
- ・年金の支払いや各種の届け出の方法は、今までと変わりません！
- ・年金相談のお問い合わせ先や利用料金も変わりません！

ねんきん定期便専用ダイヤル 0570-058-555

ねんきんダイヤル 0570-05-1165

- ・社会保険事務所に設置されていた「協会けんぽ」の出張相談窓口は、引き続き年金事務所に設置されます！

☆年金記録問題は今…☆

秋葉代議士が総務大臣政務官を務めていた平成19年に総務省に設置された「年金記録確認第三者委員会」は、国民の皆さまから年金記録訂正の申し立てを受けて社会保険庁（1月からは日本年金機構）に訂正のあっせんをしてきました。しかし第三者委員会での申し立てでは原則として証拠が必要で、訂正が認められたのは平成21年末で約40%にとどまっています。今後は被害者である本人の負担を軽減するため、一定の条件を満たせば十分な証拠がない場合でも年金事務所（旧社会保険事務所）で訂正することが可能になる予定です。

また5000万件の宙に浮いた年金のうち、平成21年9月現在で年金記録が基礎年金番号に統合できたのは1257万件。1028万件については説明が難しいとされています。政府は年金受給者や加入者が年金記録を確認できる年金通帳を平成22年度から導入する予定でしたが、財源の目途が立たず、当面はインターネットで年金受給額の記録を確認できるシステムを導入することになりました。

国民年金の保険料を過去に払っていないため年金受給資格がない人への救済措置である「事後納付」の期間は、現行の2年から10年に延長される見込みです。

ハガキや切手を、是非、カンパ下さい！

国政報告会のお知らせ

★泉区 (第111回) ★

日時 **2月19日(金) 19時15分～**
場所 **八乙女コミュニティセンター**
(泉区八乙女七北田字田中1-2)

★若林区 (第112回) ★

日時 **2月26日(金) 19時～**
場所 **若林南材コミュニティセンター**
(若林区南小泉字八軒小路5-4)

★宮城野区 (第113回) ★

日時 **2月27日(金) 17時30分～**
場所 **東仙台コミュニティセンター**
(宮城野区東仙台5-32-17)

詳しくは**仙台事務所 (022-375-4477)** までお問い合わせください!

映画「いのちの山河 日本の青空川」 が公開されます!

乳幼児死亡率全国一、病院ゼロの村から、老人医療費無料化と乳幼児死亡率ゼロを実現した、岩手県沢内村(現西和賀町)。深沢晟雄村長と村長の奮闘で達成された「生命行政」の物語が、今月公開されます!

秋葉代議士と沢内村の出会いは、大学時代に読んだ及川和男氏の原作『村長ありき』に遡ります。この本に感銘を受けた代議士は、松下政経塾生のとき、老人福祉をテーマに現場体験をしたいという思いから、実際に沢内村に足を運んで2週間の行政研修を受けてきました。研修や深沢未亡人との懇談を通して、政治の基本は「命」であることを感じ、政治家としてあるべき姿を見たそうです。今となっては、深沢氏は秋葉代議士の尊敬する政治家の一人です。

沢内村初の病院の初代院長となった加藤邦夫氏は、丸森町出身で角田高校の先輩にもあたります。偉大な先輩からアドバイスを受けながら、沢内村長のように「命を大切に政治」を実現したいと思います。

作品は **2月6日(土)～19日(金)**
仙台薬局セントラルホール

にて上映されます。代議士も昨年行われた試写会で作品を拝見し、改めて感銘を受けたそうです。皆さまもぜひ、足を運んでみてくださいね!

教えて! 永田町!

今回は「憲政の神様」尾崎行雄氏について紹介します!

衆議院正玄関広間には、2つの胸像が置かれています。議員在職50年以上にわたり憲政のために尽くされた功績を顕彰するために建てられたものです。

そのうちの1つが尾崎行雄氏。(もう1つは三木武夫氏) 尾崎氏は1858年生まれで、1890年の第1回総選挙に当選し、1952年まで連続25回も当選しました。その間、文部相、司法相などを歴任しました。1912年の第1次護憲運動では犬養毅とともに運動の先頭に立ち、当時の桂太郎首相を追及して「憲政の神様」と呼ばれるようになったことはあまりにも有名です。戦後は長老的存在として活動、衆議院名誉議員となったのち、1954年に亡くなりました。

彼の言葉に、「人生の本舞台は常に将来にあり」があります。「何歳になっても、これまでの人生は序幕にすぎない。これからが本舞台なのだ」という意味を含めた言葉です。彼は続けて「人間は、歳を重ねれば重ねるほどその前途が益々多望なべきはずのものだというのが、私の最近の人生観である。人間にとっては、知識と経験ほど貴いものはないが、この2つのものは毎年が増加し、死の直前が2つとも最も多重に蓄積された時期である。故に、適当にこれを利用すれば、人間は死ぬ前が最も偉大な事業、または思想を起こすべき時期であるに相違ない。」と述べています。

歳を重ねた方々が、その知識と経験を十分に活かし、誇りを持って生活できる社会が実現されることを、尾崎氏も願っているのではないのでしょうか。給付だけにとどまるのではなく、「やる気」を応援する政策を提案していきたいと思います!

国会見学、随時受付中!!

通常国会が始まりました。政治の現場を見にいらっしやいませんか? 国会は基本的に一般公開されていますが、秋葉賢也事務所にお申し込みいただければ、通常の見学コースでは見ることができないところも見学できます! 国会の会期中は、本会議や委員会の傍聴も可能です。お一人様からお申し込み可能ですので、ご希望の方はお気軽にお問い合わせ下さい!



秋葉賢也仙台事務所

仙台市泉区上谷刈4-17-16
Tel 022(375)4477
Fax 022(375)0057

購読料 年額6,000円
編集 関アクトジャパン

～ kenya's PLOFILE ～

- 昭和37年7月3日宮城県生まれ、47才。
- 角田高校を経て、中央大学法学部卒業、東北大学大学院法学研究科博士課程前期修了。
- 財松下政経塾卒塾生(第9期生 宮城県初)を経て、宮城県議会議員(三期)を務める。
- 総務大臣政務官や党副幹事長などを経て、現在、衆議院議員三期目。
- 決算行政監視委員会理事、総務委員会委員、災害対策特別委員会委員、党厚生労働部会長代理、厚生関係団体委員長、党改革実行本部事務局局長、情報調査局長を務める。
- 著書:「地方議会における議員立法」(文芸社)、「東北の夢創造」(ぎょうせい)。
- 趣味:野球、空手などスポーツ、音楽、映画。